

農業委員会だより

発行:中標津町農業委員会 編集:広報特別委員会



農業なかしべつ

第32号

今回は計根別農協西竹地区
青木達也さん、妙さん、悠くん
(9)、大空くん(5)、結くん
(2)ご家族を訪問し、お話し
をうかがってきました。

青木さんは東京出身で、酪農との出会いは、本屋で立ち読みをしていて酪農という仕事を知り、興味が沸いたとのこと。
ちょうど、転職を考えていたこともあり、酪農にピーチンときた
そうです。牛を見たことがなく、牛のことを一切考えたことも無い人生でしたが、それがきっかけで家族と話し合い、一年後、浜中町の研修牧場で受け入れてもらえることとなつたため、北海道への移住を決意されたそ
うです。

浜中町で一年間、標茶町で一年間の研修。そして、中標津町では二年半、通算約四年半の研修を経て、今年九月によく念願であった就農をすること
ができました。現在牛は20頭(10月20日時点)これから12ヶ月までに40頭を増やして60頭とし、繋ぎ牛舎、放牧主体のロール体系でスタートするこ

と、自分のやりたいようにできる経営者としての立場が楽しく、毎日いろいろなことを想像しながら仕事をする充実した日々を送っています。一番の魅力は生活環境で、普段子ども達が自由に伸び伸びと考え遊ぶ姿や一緒に手伝いをしてくれる様子を見て、「こちらに来て本当に良かった」と感じています。

これから夢はスタート地点に立つたばかりなので、まずは経営を上手くまわせるようになること、そして今までお世話になつた地域に恩返しがしたいということでした。

最後にこれから農業を志す方たちへタイミング等により、遠回りしてしまうこともあるかもしれません、自分がやりたいことは決してあきらめないことです。それが何より大切ということでした。

青木さんご家族にはお忙しいなか、取材にご協力いただきありがとうございました。これからも家族仲良く、地域と仲良く、理想の牧場経営を目指し、家族全員でがんばってください。

私は平成26年9月より多くの関係各位の方々にサポートしていただき、西竹地区に就農いただきました。まだまだ経験も浅く、アドバイスできるような立場ではないのですが、ひとつだけおすすめすることは、農業委員の方、地区の方々と多く話すことです。気候のこと、土地のこと、土のこと、牛のこと、家族のこと。自分の想像と違つたことや、「この地で暮らすうえで気づかされることが多くあります。それは、経験の無い自分達、新規就農者には大変ありがたいことだと感じました。そして、そのことを次の新規の方や、次の世代にちゃんと伝えていくことも、重要なことだと感じました。まだまだ頼りない自分達ですが、いつの日か、縁あつてたどり着いたこの地区にお役に立てる日が来る様に日々頑張っていきたいと思します。青木さんと一緒に頑張ります。

青木夫妻新規就農への道

広報委員長 和泉光広



西竹地区
岡田 好正

地域からのエール

新年あけましておめでとうございます。皆様には気持ちも新たに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

また、農業委員会の業務執行に対しまして、関係機関の方々をはじめ、農業者の皆様には真摯に協力して頂き、厚く御礼申し上げます。本年も何卒よろしくお願ひいたします。

昨年を振り返りますと、一昨年の様な天候不順に悩まされることなく、畑作物の平年比では馬鈴薯が103%、甜菜が119%と共に収量は平年より良好でしたが、大根については全体の収量が伸びた分、金額については少し弱かった様でした。ブロッコリーは100%位でしたが、販売収量は若干平年比を下回りました。トウモロコシは天候にも恵まれ、品質、収量共に良好な状態で、迎えた収穫作業間近の台風で心配されました。大事に至らず安堵しました。農業全般として概ね良好な状態で推移しましたが、1年だったように感じます。

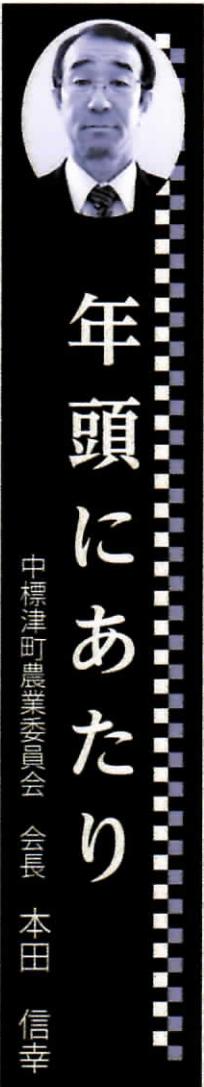
さて、農業委員会活動は農地の集約化や遊休農地の発生防止など、農地利用最適化がこれまで以上改正農業委員会の位置付けとされています。本市では中標津町農協と計根別町農協が中心に関係機関と連携し、新規就農促進に取り組むことや畜産クラスター事業によるTMRセンターや搾乳口ボット関連の規模拡大がとり進められ、遊休農地の発生防止に大いに貢献されているところですが、休農者が止まらない事や日欧EPAや11カ国TPPなど、今後に対する不安要素は尽きません。これ以上休農者が増えると遊休農地の発生が危惧され、農地集積に影響する事が考えられます。酪農業は特に労働時間が長い産業ですが、今では牧草収穫作業等はTMRセンターやコントラ農業者に委託し、搾乳に専念する農家の割合が多くなり、身体の負担軽減に寄与しているものの、農家にとって人手不足は、今後深刻な問題になる事は間違いないでしょ

う。農業委員会としても後継者の花嫁対策等を関係機関と連携して取り組んでいますが、現に酪農ヘルパーの人手不足や実習生や研修生の確保に苦労されている状態です。この地域には多くの後継者がいます。その若者たちが思いつき経営に想いをぶつけてもらう為にも政府に対し、現状認識について関係機関との連携を密に提言していきます。更に農業委員会では農業者年金の加入促進も行っています。後継者や若奥さんはもとより、これから5年～10年で後継者へバトンタッチされる親世代の奥さんには退職金として加入して頂きたいと思いますので、今こそ検討してください。

農業委員会の責務は、地域農業者の意見や要望を確認し、貴重な農地を守り有効活用することと、農地行政の適正な執行に努め、農業委員と事務局職員一同、積極的に取り組んでまいりますので、皆様の二層の理解とご支援をお願い申し上げあいさつといたします。

農地利用状況調査の様子

このほか、農業委員は個別にも担当地区内で委員活動を行っています。何かございましたら、地区農業委員に声をかけてください。



中標津町農業委員会 会長 本田 信幸

平成二十九年の主な活動について報告します。

1、農業委員会総会

平成29年1月～12月までの1年間で12回の総会が開催され、付議された案件は次のとおりです。

- ①農地法第3条許可申請～54件
- ②農地法第4条許可申請～3件
- ③農地法第5条許可申請～10件
- ④現況証明願い～20件
- ⑤農用地利用集積計画～154件
- ⑥買入協議の要請～7件
- ⑦農業生産法人の定期報告による要件確認～38件
- ⑧その他～86件



地区別農業委員等研修会の様子(別海町)

活動報告

- ### 2、その他農業委員活動
- ①農政委員会～2回
 - ②農地委員会～2回
 - ③広報特別委員会～4回
 - ④あつせん会議～13回
 - ⑤現地調査～34回

このほか、農業委員は個別にも担当地区内で委員活動を行っています。

何かございましたら、地区農業委員に声をかけてください。

農地は、かけがえのない公共財

「農地を守る農業委員会」～農地パトロール

●農地の利用状況調査

農地法では農業委員会が年1回、農地の利用状況を調査することが義務付けられています。当町では町内を9地区に分け、10月5日から11日まで、農業委員2名、事務局員1名の3名一班体制で地区毎の重点箇所を巡回して実施しました。



農業用施設転用地の確認

●農地パトロール
農地パトロールを10月16日（月）10時から実施しました。砂利採取等の現地7箇所の完了の状況、進捗の状況を巡回し確認しました。完了箇所は、計画通り農地復元が行わ

今後も「農地を守る農業委員会」として、本町の優良農地確保の為、活動してまいりますので、農業者の皆さん、関係者の皆さん、「理解」、「協力」をお願い申し上げます。

現地調査終了後、役場302号会議室において、9班に分かれて行つた利用状況調査の報告検討会を行いました。各班から調査結果の報告を受け、問題点の整理や解決方法について検討しております。



農地利用状況調査報告検討会



JA中標津会議室にて今井照男様(豊岡地区)

適切な経営移譲を進めています。ただくことを目的に、農業委員会と農協が連携して毎年この時期に実施しているものです。今年度は中標津地区で9組、計根別地区で1組、合わせて10組の経営移譲が予定されており、10月24日から11月21日まで、地区担当の農業委員と事務局、管轄する農協の担当者とで順次自宅等を訪問し、農業者年金の受給手続きの方法や所有農地の確認、家族経営協定等の説明を行いました。



株田昭夫様宅(養老牛地区)



遠藤正幸様宅(青葉台地区)

経営移譲説明会を開催

経営のバトンを受けるみなさんのさらなるご活躍を期待しています。

中標津町農業委員会

会長 本田 信幸

会長代理 笠原 康博

委員 氏家 康夫

委員 中村 正生

委員 小林 亨

委員 赤波江信二

委員 國光 達男

委員 高橋 正一

委員 後藤田宏幸

委員 上原 房子

委員 須崎 和男

委員 瀧本 智

委員 田中 世一

委員 和泉 光広

委員 田中 健治

委員 竹村 聰

委員 武田 世一

委員 中洋希

あけましておめでとうございます。

委員長	谷川孝二	委員	田中洋希	委員	竹村聰	委員	武田健治	委員	上原房子	委員	須崎和男	委員	瀧本智	委員	田中世一	委員	和泉光広
-----	------	----	------	----	-----	----	------	----	------	----	------	----	-----	----	------	----	------



鹿追町農業委員会において意見交換

11月13日・14両日、委員6名、事務局1名で鹿追町へ視察研修に行かせていただきました。

13日は鹿追町農業委員会において、菊池会長、事務局の津川さんより、鹿追町の概要等について説明を聞きました。鹿追町は人口五千五百人、農地面積一万千五百ha、農家戸数は百三十六戸で酪農六割、

畑作四割となつております。全体的に農地は不足している状態のことでした。また、交換分合の要望があるようですが、支援が少なくなつた関係で二年ほど前から停滞しております。控除がなくなつた点、土地評価額が反当り34万～19万円と根室地域より高額なことも影響していると思われました。鹿追町は新規就農が無く、遊休農地もゼロということで、離農は年に二、三戸だそうです。農地が不足している状態が影響しているためだと思われますが、農地の斡旋地域は廃止され、町内の農家であれば、どこからでも申し込みができるということでした。

14日は鹿追町環境保全センターバイオガスプラントにうかがいました。現在、周辺酪農家十戸から原料一日当たり90tを受け入れ、発電して栽培し、付加価値をつけ

るため、冬季の12月から1月の出荷に合わせるそうです。また、民間企業が参入し、バイオガスから水素を作るプラントも稼動しています。さら



バイオガスプラントを視察

いました。発電機2基で290kW、一般家庭六百戸分の電気使用量に相当するそうです。また発電の余剰熱を利用して、チョウザメの飼育をしており、現在三千五百匹、近いうちに一万匹にするそうです。同じ余剰熱を利用し、マンゴーの栽培も行っています。夏場は雪氷熱、冬場は余剰熱を利用



チョウザメ飼育プール

るためにも冬季の12月から1月の出荷に合わせるそうです。また、民間企業が参入し、バイオガスから水素を作るプラントも稼動しています。さら

に今年、瓜幕地区においては、町内2基目となる25kW×4基で発電をするバイオガスプラントが稼動しました。以前はプラント稼動前の臭気等による苦情が年100件程度あったのに対し、現在は年10件以下に減ったこと、また酪農家の糞尿処理にかかる労働力の軽減が図られたということでした。

今回、はじめて視察研修に参加させていただきましたが、

農条件の違いなど、地域によってかなりの差があると認識しました。今後も研修等に積極的に参加させていただき、自己研鑽していきたいと思います。



マンゴー栽培ハウス

道内研修視察レポート

鹿追町農業委員会、鹿追町環境保全センター 農業委員 竹村聰



表彰式でメダルをゲット!

ういう状況下で連合会の有志が保育所の設置をせんでした。それままで、町役場に申し入れた結果、この場所が、この空間が30年後の今、私達をやさ



毎年恒例の玉入れ、大人の部

去る9月9日、第30回の中標津南部連合会の大運動会が協和保育所グラウンドにて開催されました。あいにくの曇天にも関わらず、老若男女大勢の参加者の歓声で会場は包まれました。競技は真剣なものから、周囲の笑いを誘うものまでバリエーションたっぷり。いささか毎年同じで飽きた感も無い訳ではないですが、それもう愛嬌です。

上手にできず泣きべそをか

く幼児から、気持ちだけ先行して体はまだスタートにいるお年寄りまで、多種多様の楽しみ方でした。この幸せな光景を目の当たりにして感じたことがあります。それは「農業には作物や乳牛を育てるだけでは無く、地域や人を育てる力が有る」ということです。思えばこの地区には保育所幼稚園が存在せず、先輩達は忙しい農作業の傍らちびっこ達をそれらの施設に預ける事

農業が残せる物は

農業委員 武田健治

レバ取れとおこらま。

保育所開所当時の園児が、今は自分の子供の手をとり一緒にダンスしている姿も、感慨深いものがあります。でなければ、一世代、二世代後も変わらずに9月の空に皆で歓声をあげて欲しいと思います。この農家ならではの運動会を、地域を大事にして欲しいと思います。地域が崩壊したら、この運動会も保育所も無くなってしまいます。

最後に僕の好きな旧ソ連の

ゴルバチヨフ大統領の言葉を借りて、この文を終わりにします。

「収穫には立ち会えないかも知れないが、できるだけ多くの種を蒔こう。」



玉入れ、子どもの部



昼はバーベキューで親睦を深める

全國農業新聞

発行日：月4回 金曜日発行
形 態：B3版 10~14 頁縦
購読料：月 700円
(送料、税込み)

全国農業新聞は経営と暮らしに役立つ農業総合専門誌です。
お申し込みは、お近くの農業委員、農業委員会へどうぞ。

農業者年金協議会から

「農業者年金加入推進セミナー」参加報告

平成29年11月29日に全国農業者年金連絡協議会、全国農業会議所主催によります、農業者年金加入推進セミナーが東京メルパルクホールで開催されました。

加入推進に関する活動事例報告は、青森県黒石市農業委員会、長野県中川村農業委員会、熊本県玉名市農業委員会より発表がありました。

記念講演では「健康診断・人間ドックの1~20%活用術」と題し、「ハシ文春ビル診療所・コハシメディカルセンター院長の小橋隆一郎氏の講義が行



「根釧女性農業委員の会勉強会」標茶町にて開催

われました。

最後に農業者年金の加入促進と『のうねん俱楽部』組織活動の強化に関する申合せ決議を決定しました。

「農業者年金代議員等研修会」開催報告

平成29年12月18日、根室地

区年金協議会の代議員及び農業委員を対象とした研修会が中標津町なかまつぶを会場に開催され、当町からも20名が参加いたしました。

当日は、北海道農業者年金協議会より、新農業者年金の制度や新旧制度の年金の受給方法等について、それぞれ詳しく説明を受けました。



「根室地方農業委員会連合会による独自要請」

平成29年11月29日、30日に根室地方農業委員会連合会、

釧路地方農業委員会連合会、合同により、地元選出国会議員2名に対し、衆議院議員会館において代議士と面談し独自要請を行いました。



伊東代議士への要請

要請については、女性農業委員に対する活動に係る予算確保や農地利用最適化交付金の見直し、酪農ヘルパーに対する支援など農業施策に関する要請を行いました。



鈴木代議士への要請



老後の備えは農業者年金で安心!

国が支える
安心できる
重い手積立年金

女性農業者の皆さんへ あなた自身の年金を!

老後の備えは万全ですか?

現在65歳の農業者年金受給者の平均余命は、男性が22年(87歳)、女性が27年(92歳)です。

女性の老後は男性以上に長い道のりです。

[日本人の平均余命は、男性84歳、女性89歳となっており、農業者年金受給者の平均余命の方が長くなっています。]

女性農業者の長い老後を
しっかりサポートします

家族経営協定を結べば 保険料の国庫補助も 受けられます。

認定農業者で青色申告をしている方と
家族経営協定を結んで農業経営に
参画している配偶者も保険料の
国庫補助が受けられます。

女性の農業経営への参画を
しっかり応援します!

※家族経営協定についての
詳細は裏面をご覧下さい。

農業者の老後の生活の収入は、
国民年金+農業者年金が基本です!

国民年金の支給額は月額最高6万5千円、
夫婦お二人で約13万円です。

一方、高齢農家の家計費は夫婦お二人で
23~24万円が必要となるデータがあります。

→月額約10万円不足!

国民年金の不足分を
しっかりカバーします

農業者年金の加入には 農地の権利名義は 要りません。

ご主人だけが農業者年金へ加入して
いたとしたら、先にご主人が亡くなった時、
あなたの老後の支えは国民年金だけに
なってしまいます。
一人一人の備えが大切です。

自らの力で
老後に安心を!

農業者年金に夫のみ加入した場合と夫婦で加入した場合の比較

夫と妻は同年齢で、農業者年金へは30歳で保険料月額2万円で通常加入し、農業者年金受給者の平均余命(男性87歳、女性92歳)まで生存するとして比較

65歳~87歳の年金額(夫婦)

88歳~92歳の年金額(妻のみ)

ケース1 農業者年金に 夫のみ加入	国民年金 夫 月額6万5千円 計 月額 13万円	妻 月額6万5千円	国民年金 妻 月額6万5千円
	農業者年金 夫 月額4万2千円		農業者年金 なし
	合計: 月額 17万2千円		合計: 月額 6万5千円
ケース2 農業者年金に 夫婦で加入	国民年金 夫 月額6万5千円 計 月額 13万円	妻 月額6万5千円	国民年金 妻 月額6万5千円
	農業者年金 夫 月額4万2千円 計 月額 7万7千円	妻 月額3万5千円	農業者年金 妻 月額3万5千円
	合計: 月額 20万7千円		合計: 月額 10万円

※農業者年金の試算額については、65歳までの運用利回り2.5%、65歳以降の予定利率は0.20%として行っています。

※予定利率は毎年度、農林水産省告示により定められ、平成29年度は0.20%となっています。

※各金額は単位未満を四捨五入により表示しています。

情報フーラサ

酪農家に嫁いで

—養老牛地区

菊地 美穂



自宅前にて大輔さんと愛犬と

愛媛で生まれ育ち、進学のため北海道へやってきました。牛と触れ合いだしたのも、北海道へ来てから。初めて親牛を見た時、そのでかさと、意外な俊敏さに恐怖心を抱いたことをよく覚えています。特別、牛が好きというわけではなかった私が、まさか酪農家に嫁ぐことになるとは想像もしていませんでした。中標津町には平成29年3月末よりやってきました。まっすぐな道路以外は、ただただ真っ白な牧草地が広がっており、これぞまさしく北海道! という印象を受けました。結婚前も牛と関わりのある仕事についてはいましが、牛を育てたことはなく、

まして搾乳などしたこともないから教えてもらいました。子牛のミルクやりは思つていたよりも重労働でしたが、4リットルものミルクを気に飲む子牛の姿は見ていて気持ちがよく、飲み終えた後のみるまるとしたお腹は愛らしいものでした。中には見知らぬ私に警戒し、ミルクを飲みに来ない子牛もいましたが、何日か続けるうちに近寄つて来てくれた時は、やつと慣れてくれた! と嬉しくなりました。今までは、どの牛も同じようにみえていましたが、世話をしていくうちに牛達それぞれの性格の違いがみててきて、知れば知るほど牛が可愛くなってしまった。ついつい、牛に話しかけてしまいます。今はまだ、教えてもらった作業をこなす事で精一杯ですが、少しずつ知識と技術を身につけて、より牛達にとつて過ごしやすい環境を作つていけるようになります。

農業後継者対策協議会から

各種行事のご案内

農業後継者対策の一環として、交流会等各種行事の開催を計画しています。

詳しい開催内容・日程等については決まり次第、随時ホームページに掲載しご案内します。
ホームページは([中標津町 後継者]で検索→)



「フレッシュユミズの集い」 3月開催予定

昨年は保健師を講師に招いて、午前中にストレッチ教室、終了後は昼食を食べながら懇談会を行いました。

詳細は決まり次第、対象となる方へ直接封書にてご案内します。



昨年のストレッチ教室の様子

お正月も終わり、新年会もようやく落ちついた頃でしょ
うか。体は酒まみれ、胃腸はお疲れではありませんか? みな
さん、飲みすぎには注意しま
しょう。
さて、テレビを見ていたり、芸能人がサプライズで農業高校を訪れ一日農業体験をして、とてもいい企画だと思いました。農業を知つてもうきつかけと
して、どてもいい企画だと思いました。もっと農業に興味がある「コーナー」がありました。農業を志す人がたくさん出てくればいいなと感じました。

(和泉)

委 员 會	廣 報 委 員 長	和 泉 光 広
	副 委 員 長	赤 波 江 信 二
	委 員 員	武 田 健 治
	笠 原 康 博	長 谷 川 孝 二

●発行元●

中標津町農業委員会

中標津町丸山2丁目22番地
TEL(0153)73-3111
FAX(0153)73-5333

ホームページ

URL http://www.nakashibetsu.jp/nougyou_jinkai/



編集後記